京都発！我が社の強み

株式会社 DIY STYLE
http://diystyle.jp/

森本 隆 社長

DIYにもほどがある！

「ゆうさい君の籠城シート」や軽量赤れんがを考案、
舞鶴にイノベーションを!

舞鶴港を望む広々とした敷地の一角で、「ゆうさい君の籠城シート」や軽量赤れんがを考案されている株式会社DIY STYLEの森本社長にお話を伺いました。

舞鶴でフローリング材のネットショップ

もともとは大阪で設計の仕事をしていたのですが、激務で過労死しそうになり舞鶴に戻りました。実家の建具屋を手伝うつもりでしたが「ヤフーオークション」で実家の不良在庫の建材を売ったことがきっかけでネットショップを始めました。この事務所は今から4年前にここ舞鶴港に開設しました。

主力製品はフローリング材の「貼るだけ簡単フローリング」一応DIY会社の社長ですので、手先は器用、何でも自分で作ります。ただ、得意だけれど、面倒なのは好きじゃない。で、簡単にできるよう工夫したところ、そこが受けたのかなと思っています。DIYの好きな人というのはとかく凝ってしまいがちで、素人には手が出せなくなってしまうことがよくありますが、この製品は根気さえあれば誰にでもペタッと貼るだけで本格的なフローリングが出来上がります。今まで、完成しなくてお叱りを受けたことはありません。お客様目線で取扱説明書を何度も作り直し、使用方法に関する問い合わせが減るのを実感しています。

取扱説明書（マンガで作成）

お陰様で、消費税が上がってからも売上は堅調で、一部の地域でドッと売れたりするので口コミで広がっているのかなと思っています。うちはBtoCを基本としており、一般消費者向けがメイン。1回の注文で100万売れるより10回の注文で100万の方が楽しい。小さな現場主義です。発注がきたらその日に出荷、短納期が基本です。話がきたときがお客様のマックスの気持ちなので、この機を逃さず売らないと。ネット販売は今や翌日配達の時代、消費者の我慢度も下がっていると感じます。1年365日どこにいてもメールをチェックしているといった感じです。

こういう商品を作っている会社は工務店や設計者の意見を重要視するところが多いと思いますがDIY STYLEは直接お客様の声を聞き出しマーケティングに活かしています。お客さまの何気ない一言からいろいろとアイデアが生まれます。問い合わせはウェルカム、対応には絶対の自信があります。

ゆうさい君の籠城シート

フローリング材の下に敷く等シートは3種類作っており、一つがこの「ゆうさい君の籠城シート」です。これは災害時に避難所となる体育館等の床に敷く防寒シートです。

関連商品の「床デコシート」を作っているときに漠然とこれは災害対策に使えるのではと思っていたのですが、実際、震災後の防災訓練で、冬の体育館のあまりの寒さにお腹を壊し、「避難したら風邪ひくわ」と思ったのが開発のきっかけです。しかし、防災関係はなかなか新規参入が難しく、あきらめていたところ、3年ほど前に舞鶴市の「政策づくり塾」の1期生として防災チームに加わる機会がありました。30～50才代の市民と市職員が協働で舞鶴市の防災について議論百出で話し合いました。その中で防災の為に、僕は企業としてこういう商品を作ってみたいと「床デコシート」を防寒用に活用することを提案すると、あれよあれよと具体化され、「籠城シート」のネーミングまでいただき、生産の目途もついてしまいました。舞鶴市が買ってくれることを期待して市長の前でプレゼンもしたのですが、採算面を考えると商品にする気はありませんでした。しかし、新聞に取り上げられ、なんと自衛隊にお買い上げいただき、現在では消防署にも納品しています。カットして販売もしているので、テント用とか防災用以外の用途でも出ています。また、最近ではBPC策定が問われているからか企業さんからの問い合わせも多くなっています。

防災関係の展示会等で全国を回るようになり、とある展示場で隣のブースにいらっしゃった被災者の方に「あの時これがあったらな」と言っていただきました。お話を聞いてみると、地震の後、避難所に入れなかった人々は学校や軒先に避難していたそうです。夜はあまりの寒さに眠ることができず、体を温めるためにとにかく山の中をひたすら歩き、日がのぼると寝るという毎日だったそうです。何百人も真っ暗な山の中をぞろぞろとです。下はいつ津波がくるか怖くて歩けなかったということでした。

ネーミングですが、防災用品にも何かキャラクターがあった方が親近感がでるのではと考え、商工会議所青年部に所属させていただいていた縁で「ゆうさいくん」を使わせていただき、田辺城の籠城戦の逸話から「ゆうさい君の籠城シート」と名付けました。これをゆうさい君のキャラグッズと言っていいのなら一番の売れ行きではと思っています。展示会等でも、まず名前

のインパクトから見にきていただくことが多いです。時には不謹慎だと叱られることもありますが、何の印象にも残らないネーミングにはしたくなかったので満足しています。

この商品は、あくまで冬期の災害時に体育館等の避難所で一番使えるようなモノにするのが目的です。「防寒。軽量。保管場所をとらない。」の3つにこだわり余計な機能はあえて追加しません。防カビ、防火、防水等機能を付け出すとキリがありません。実際、いろいろと提案してくださる方もあるのですが、機能を増やすとその分重くなるし場所も取ります。災害時に軽く抱えて階段を上れるというのがコンセプトです。

災害時の優先順位は食べ物に目がいきがちですが、3日食べなくても人は死にません。しかし、体力温存に寒さは大敵です。このシートを引いて横になっていれば3日くらいしのげるのです。

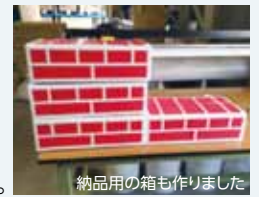
舞鶴で赤れんが工房を

舞鶴市は赤れんがの町と謳っている割には、赤れんががあるのは赤れんがパークのあたりだけ、また、赤れんがを作っている工場もない。そこでDIY魂がわき起こり、「じゃ作ってみよう」というのが始まりでした。しかし、いろいろと調べてみて国内で生産することは難しいとわかり、こんどは中国大連のアンティーク煉瓦を輸入しようと思って調べたりしましたが商品単価より送料の方が高くつくことが判明しました。施工するうえでも自分で花壇を作ってみたのですが、あまりの重労働にDIYでの普及は難しいと判断しました。では、もっと軽い煉瓦を作ってみようと思い立ち、チャレンジファンドのお世話になり、舞鶴高専の先生を紹介していただきました。最初は簡単にできるように言われたのですが、これがやり始めるとすべてにおいて大変でした。

この軽量赤れんがは外壁材で商品名をQBB(クイックビルドブリック)と言います。非常に軽量なので、誰でも簡単に接着材で外壁に貼る事が可能です。QBBは煉瓦をスライスした形状で重さが100グラム、更に製造時に焼かないので環境にも優しく強度もあります。特許出願も行っています。お手軽ですが、写真のとおり本格的な赤れんがを実現できます。

何にしても一般消費者にモノを買ってもらうにはストーリーが必要だと思います。今回は舞鶴市の為に赤れんがを作るというストーリーを描き、「舞鶴の街並みを赤れんがに」と京都府立大学の先生と発表会をし、新聞にも取り上げていただきました。まずは赤れんがでアンパンマンやドラえもんなどを作って盛り上げてみようと試作をしています。そして、公共の建物にも波及し、だんだんと舞鶴が赤れんがの町になっていく。舞鶴で赤れんがを貼って帰るのがトレンドになり、観光名所になり、注目を集め視察団もきて、町おこしにつながる。すばらしいビジネスモデルでしょう。まだ、量産にはいたっていませんが、そんなに遠くはないです。

納品用の箱も作りました

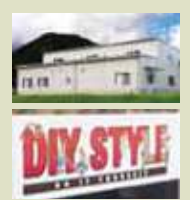
手始めに、廃校になった由良中学校の1室を借りることができたので、そこに赤れんが工房の研究室を作ります。もちろん体験教室も実施する予定です。国の有形登録文化財である「神崎ホフマン窯」という昔の赤煉瓦工場（産業遺跡）も近くにあるので、合わせてきていただければと思っています。

軽量赤れんがでイノベーション

うちは社員が少なく、あまり雇用で舞鶴市に貢献できていないのであかんなーという思いがあります。そこで何とか舞鶴市に貢献し、地元に愛される企業にならんとあかんと思い始めました。地元に必要とされる会社は末永く生き残っていけると思います。もともと、そんなに強く舞鶴に愛着を持っていたわけではありませんでしたが、舞鶴で起業し、チャレンジファンドに選ばれてから郷土愛に目覚めました(笑)

また就職のため一度舞鶴を出たことにより冷静に舞鶴を見られるということもあると思います。赤れんがを作ろうと思い立ったのもそうです。そして、近くに舞鶴高専があったおかげで、ずっとやりたいと思っていた技術系にも安心してチャレンジできました。アイデアと実行力はあるけれども自社だけでは手に負えない商品開発、技術開発、そこに地元、舞鶴高専の持つ沢山の知恵と技術がぴたりとはまる!それを利用しない手は無いと思います。DI Y STYLEのような小さな会社にも門戸は広く開かれており舞鶴高専の持つ知恵と技術をお借りすることが出来るのは、小さな企業でも大企業にも負けない研究所を持つのと同じ事だと私は思います。そんなコラボレーションから生まれたのが軽量赤れんがなのです。

この軽量赤れんがの事業は単なる外壁材ではなく100年先を見据えたイノベーションだと思っています。舞鶴の町をこの軽量赤れんがに貼り替えていく。狙いは100年続くビジネスモデル。舞鶴で成功すれば、次は横浜そして世界遺産登録に湧く富岡製糸場周辺にも是非売り込みたいです。そして世界中の町の煉瓦をその町で使われている煉瓦の軽量モデルに貼り替えていく。CO_2削減の面を考えると決して夢ではないと思っています。

Company Data **株式会社DIY STYLE**

代表取締役／森本　隆
所　在　地／〒624-0945 舞鶴市喜多1150-40
設　　　立／2005年
資　本　金／3,000,000円
従　業　員／4名
事 業 内 容／インターネットショップによる建材、インテリア、雑貨の販売、建材の企画、製造、輸入業務
U　R　L／http://diystyle.jp/index.html

お問い合わせ先
京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当　TEL：075-315-8635　FAX：075-315-9497　E-mail：kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp